

【家庭総合(家総002-901)】シラバス・年間指導計画案

※内容により、同じめあてが重複して複数箇所に入っている場合があります。

教科	科目	単位数	学科等				使用教科書名(出版社)				
家庭	家庭総合	4	全日制・普通科・1・2年				家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍 家総002-901)				
科目的目標	生活の営みに係る見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。				評価の観点(科目)		主体的に学習に取り組む態度				
月	時数	単元名	項目名	学習指導要領	教科書頁	配当時数	時数計	知識・技能	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
4月	1	家庭科の学び方 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	家庭科の学び方	A~D	見返し1~2	1	2	知識・技能		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
	2		ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	D	4~9	1		思考・判断・表現		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
	3	第1章 生涯を見通す	1 人生を展望する	A(1)	10~15	2	3	知識・技能		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
	4		2 目標を持って生きる		16~19	1		思考・判断・表現		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
	5		1 情報の収集・比較と意思決定		232~235	2		知識・技能		・学校全体の教育活動と関連させる。 ・地域の社会福祉協議会等と連携させる。 ・ホームプロジェクトにつながるよう、生活から課題を見つけることを常に意識させる。 ・ホームプロジェクトは長期休み等に実施する。	・学校全体の教育活動と関連させる。 ・地域の社会福祉協議会等と連携させる。 ・ホームプロジェクトにつながるよう、生活から課題を見つけることを常に意識させる。 ・ホームプロジェクトは長期休み等に実施する。
5月	6	2 購入・支払いのルールと方法	236~241	C(2)	3	15	知識・技能		・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。	・今までの自分を客観的に振り返らせる。 ・「18歳成年時代」の自立について特に考えさせる。 ・ライフコースの参考になる各種例や資料を示し、集めさせる。 ・(SDGsとの関連)1~8、10~12、17 ・(連携)社会福祉協議会、NPO法人等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第2~11章、「TRYライフプラン」 ・(他教科・科目関連)総合的な学習の時間(キャリア教育)	
	7		3 消費者の権利と責任		242~245	2	思考・判断・表現		・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。	・実生活の家計の收支を認識させる。 ・日常のニュースから実際に起こっている消費者問題を集めさせる。	
	8		4 生涯の経済生活を見通す		246~247	2	知識・技能		・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。	・日々のニュースから実際に起こっている消費者問題を集めさせる。 ・消費者市民社会の一員として、できることを考えさせる。 ・(SDGsとの関連)1~5、7~10、12~17 ・(連携)NPO法人、金融機関、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1、10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合、公共・政治・経済、情報I	
	9	第9章 経済生活を営む	5 家計をマネジメントする	C(1)	248~253	5	知識・技能		・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。	・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。	
	10		6 これからの経済生活		254~255	1	知識・技能		・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。	・実生活の家計の收支を認識させる。 ・日常のニュースから実際に起こっている消費者問題を集めさせる。	
	11		7 生涯を見通して家計をマネジメントする		258~261	2	知識・技能		・生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。	・日常生活から持続可能性に関する問題を考えさせる。	
6月	12		8 大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。		262~265	1	3	知識・技能		・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 ・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。	・持続可能な社会を構築するために、できることを考えさせる。 ・持続可能な社会を構築するために、できることを考えさせる。 ・(SDGsとの関連)1~17 ・(連携)NPO法人、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1、6~9、10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合、歴史総合、日本史探究、世界史探究、公共・倫理・政治・経済、生物基礎、生物、保健
	13	第10章 持続可能な生活を営む	9 持続可能な社会を目指して		266~269	1		知識・技能		・持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。	・持続可能な社会を構築するために、できることを考えさせる。 ・持続可能な社会を構築するために、できることを考えさせる。 ・(SDGsとの関連)1~17 ・(連携)NPO法人、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1、6~9、10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合、歴史総合、日本史探究、世界史探究、公共・倫理・政治・経済、生物基礎、生物、保健
	14		10 一人一人の力で社会を動かす		270~273	1		知識・技能		・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。	・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。
	15		11 卷頭・各章末 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	D	4~9	1	1	知識・技能		・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	●夏休みの宿題(または冬・春休みや学期中に実施) ・ホームプロジェクト

月	時数	単元名	項目名	学習指導要領	教科書頁	配当時数	時数計	学習のめあて	備考(学習活動の特記事項、他教科との関連等)	課題・提出物等	重点的に評価する観点		
											知	思	態
9月	25	第2章 人生をつくる	1 人生をつくる	A(2)	20~27	4	11	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。	・ライフスタイルの多様性や課題について、新聞記事等で実例を示し、集めさせる。 ・(SDGsとの関連)1、3~5、8、10、16、17 ・(連携)社会福祉協議会、NPO法人等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1、3~8、10~11章 ・(他教科・科目関連)倫理、公共・政治・経済、保健	・レポート ・ワークシート ・学習ノート ・実験・実習レポートなど	○		○
	26		2 家族・家庭を見つめる		28~35	4		・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。			○	○	
	27		3 これからの家庭生活と社会		36~41	3		・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるにはどのような社会を実現すればよいか、考えて実践しようとする。			○	○	
10月	33	第3章 子どもと共に育つ	1 命を育む	A(3)	44~47	3	18	・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。	・視覚教材を活用する。 ・子どもに関する情報を調べさせる。 ・(SDGsとの関連)1~5、8~12、16、17 ・(連携)幼稚園、保育所、認定こども園、小学校、学童クラブ、社会福祉協議会等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1、5、6~8、10~11章 ・(他教科・科目関連)公共・政治・経済、生物基礎、保健	・視覚教材を活用する。 ・子どもに関する情報を調べさせる。 ・(SDGsとの関連)1~5、8~12、16、17 ・(連携)幼稚園、保育所、認定こども園、小学校、学童クラブ、社会福祉協議会等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1、5、6~8、10~11章 ・(他教科・科目関連)公共・政治・経済、生物基礎、保健	○		○
	34		2 子どもの育つ力を知る		48~55	4		・子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。			○		
	35		3 子どもと関わる		56~61	5		・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。			○		
11月	41		4 子どもとの触れ合いから学ぶ		62~65	3		・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。			○	○	○
	42		5 これからの保育環境		66~73	3		・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 ・子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする。			○	○	
	43												
12月	48	第4章 超高齢社会と共に生きる	1 超高齢・大衆長寿社会を迎えて	A(4)	76~79	2	12	・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。	・身近な高齢者と接触する機会を持つ。 ・視覚教材を活用する。 ・高齢者に関する情報を調べさせる。 ・(SDGsとの関連)1、3、5、8~11、17 ・(連携)高齢者施設、社会福祉協議会等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1、5~8、10~11章 ・(他教科・科目関連)公共・政治・経済、保健	・レポート ・ワークシート ・学習ノート ・実験・実習レポートなど	○		○
	49		2 高齢期の心身の特徴		80~85	4		・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。			○		
	50		3 高齢者の自立を支える		86~89	4		・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。			○	○	
1月	54		4 これからの超高齢社会		90~91	2		・これから超高齢社会の課題を理解する。 ・自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考え実践しようとする。			○	○	
	55												
	56												
2月	59	第5章 共に生き、共に支える	1 私たちの生活と福祉	A(5)	94~95	1	5	・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。	・(SDGsとの関連)1~4、7~17 ・(連携)社会福祉協議会、NPO法人等、学校家庭クラブ活動等 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。	・(SDGsとの関連)1~4、7~17 ・(連携)社会福祉協議会、NPO法人等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1、3~4、10~11章 ・(他教科・科目関連)公共・政治・経済、科学と人間生活、地学基礎、保健	○	○	○
	60		2 社会保障の考え方		96~97	2		・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えて実践しようとする。			○		
	61		3 共に生きる		98~103	2					○	○	

月	時数	単元名	項目名	学習指導要領	教科書頁	配当時数	時数計	学習のめあて	備考(学習活動の特記事項、他教科との関連等)	課題・提出物等	重点的に評価する観点		
											知	思	感
4月	71	第6章 食生活をつくる	・生活に生かそう ・各章末「ホームプロジェクト」	B(1)	D	4~9	1	1	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己的家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	・発表形式や時期を工夫する。 ●春休みの宿題(または夏・冬休みや学期中に実施) ・ホームプロジェクト	○	○	○
	72		1 食生活の課題について考える			104~109	3		・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。	・小・中学校での学習内容と系統立てる。 ・食品成分表やアミノ酸成分表の見方を指導し活用する。 ・食品の1日の摂取量を实物や見本などで示し、具体的に把握させる。 ・実習の計画性・安全性に十分配慮する。 ・(SDGsとの関連)1~4、9、10、12~17 (連携)地域の食生活に関する産業等、学校家庭クラブ活動等 (章の関連)第1、3~4、10~11章 (他教科・科目関連)科学と人間生活、化学、生物基礎	○	○	
	73		2 食事と栄養・食品			110~121	9		・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。		○		
	74		3 食品の選択と安全			122~127	3		・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。		○		○
	75		4 生涯の健康を見通した食事計画			128~133	3		・自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。		○	○	
	76		5 調理の基礎			134~151	8		・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 ・配膳やマナーに关心を持つ。		○		
	77		6 食生活の文化と知恵			152~155	2		・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 ・世界の食文化に关心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。		○	○	
	78		7 これからの食生活		C(3)	156~159	2		・自分や家族の食生活を持続可能にできるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。		○	○	
	79	第7章 衣生活をつくる	102	B(2)		162~167	3		・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的な背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。	・見本を用いた実験・実習や視聴覚教材を活用する。 ・(SDGsとの関連)1~3、6~10、12~17 (連携)地域の衣生活に関する産業等、学校家庭クラブ活動等 (章の関連)第1、3~4、10~11章 (他教科・科目関連)科学と人間生活、化学	○	○	
	80		1 被服の役割を考える			168~175	5		・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・被服表示を参考して目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。		○		○
	81		2 被服を入手する			176~181	3		・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。		○		
	82		3 被服を管理する			182~193	8		・これまで学習してきた被服の機能、素材と管理の知識を応用しながら、目的に合った被服を製作するために、被服が身体の形に合わせてどのように構成されているかを理解する。		○		
	83		4 被服を作る			194~197	2		・現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。		○	○	
	84		5 衣生活の文化と知恵			198~201	3		・次世代に引き継ぐ衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 ・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。		○	○	
	85		6 これからの衣生活			202~211	4		・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。		○	○	
	86	第8章 住生活をつくる	126	B(3)		212~217	4		・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康・安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。	・住宅広告や住宅情報誌、インターネットなどを活用する。 ・住まいに対するイメージを広げる。 ・(SDGsとの関連)3、6、7、9~15、17 (連携)地域の住生活に関する産業等、学校家庭クラブ活動等 (章の関連)第1、3~4、10~11章 (他教科・科目関連)地理総合	○	○	
	87		1 住生活の変遷と住居の機能			218~221	2		・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。		○	○	
	88		2 安全で快適な住生活の計画			222~227	2		・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。		○	○	
	89		3 住生活の文化と知恵			228~233	3		・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。 ・これから持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考えて実践しようとする。	・関連するデータや視聴覚教材を用意したり、自分で集めさせたりする。 ・(SDGsとの関連)1~5、8、10、11、12、16、17 (連携)NPO法人、学校家庭クラブ活動等 (章の関連)第1~10章 (他教科・科目関連)公共	○	○	
	90		4 これからの住生活			268~273	3				○	○	○
	91		135								○	○	○
	92		136								○	○	○
	93		137								○	○	○
	94		138								○	○	○
	95		139								○	○	○
	96		140										

(内容解説資料)この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っておりです。